

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース/木原 克司

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

来年3月に定年退職を迎えるので、申請のための研究期間の確保ができないので科研費申請はここ数年提出しておりません。しかし、研究テーマは古代阿波国の交通路であり、従来から提出してきたものと変わりません。このテーマに則して毎年研究を継続し、2011年度も2本の学術論文を執筆した。本学の科研費申請には貢献できないけれども、今年も同じテーマで研究を継続する予定である。

2. 点検・評価

今年度は、従来からの科研費申請の研究テーマとして来た古代阿波国の条里と交通路の復原に関連して、徳島県東三好市、美馬市脇町・穴吹町、吉野川市川島町・山川町において大字・小字の調査を実施し、東三好市の三加茂町の条里と古代交通路を大字・小字境界や考古資料などを用いて復原し、従来と異なる新たな研究成果を阿波学会紀要にまとめた。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

本学に在籍できるのは残り1年であるが、従来どおり学会出張や学外での研究会出席の機会を活用して、他の大学関係者や教育関係者に本学の入学案内を配布して本学社会系コース受験者の確保に努力したいと考えている。また、これまでも本学ホームページ等を見て個人的に入学依頼をしてくる学生もいたので、そのような学生に対しては積極的に勧誘活動を行いたいと考えている。

2. 点検・評価

学会や日本各地での研究調査の機会を活用して他大学の関係者や教育委員会の教育関係者に対して、所属学生・現職教員に本学大学院受験を薦めてもらえるよう依頼した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

学生の卒論や課題研究の指導については、これまでと同様に2名の教員での合同演習を通して指導・助言を行う。本学在籍は残り1年であるため、私自身は指導院生を持つことはできないが、社会系コース所属の院生の教員採用試験に向けての対策等については積極的に指導・助言を行いたいと考えている。また、近年急増してきた大学院の長期履修生に対しては、1年生の段階から学部授業の中で生活や研究・就職についてより細かな指導・助言を行いたい。

2. 点検・評価

平成24年度は、私自身の本学在籍は1年しかないため、指導院生を持つことはできなかったが、地理学専攻の2名の院生に対して演習を通して2名の教員で修士論文のテーマの設定や研究・調査の進め方について指導・助言を行った。また、社会系コースの長期履修学生に対しても学部授業履修者を中心に生活、研究や就職について細かな指導・助言を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

平成23年3月に取得した博士論文の出版は、若干遅れており今年度にずれ込むことになったが、24年度には間違いなく出版を行う予定である。また、学位論文の出版と平行して、従来から進めて来た古代阿波国の条里と交通路の研究を継続し、2編程度の論文を学会誌に発表する予定である。

2. 点検・評価

博士論文の出版については、平成24年度に予定していたが、新たな資料の追加やそれを含めた部分的な書き直し等で若干遅れており、平成25年度前半にずれ込みそうである。また、学位論文の出版と平行して、科学研究費申請の研究テーマとして従来から進めている古代阿波国の条里と交通路の研究の一貫として、今年度は三好市、美馬市、吉野川市で現地調査を実施し、三好市三加茂町についてまとめて阿波学会紀要に執筆した。また、秋には鳴門史学会大会で吉野川流域の研究成果について講演した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

各種委員会・教授会・部会・コース会議等の学内の各種会議に出席し、職務を遂行する。大学院の定員充足に向けて、各種学会等への出席を活用して積極的に院生確保のための運動を行いたい。

2. 点検・評価

各種委員会・教授会・部会・コース会議などの各種会議に出席して職務を遂行した。また、大学院の定員確保に向けて、学会、研究会等の研究活動を利用して積極的に院生確保のための活動を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属学校の研究授業には、時間の許す限り積極的に参加し助言をするつもりである。また、教育支援講師・アドバイザー等の派遣事業には、昨年(2回)と同様積極的に協力し、県内外の小・中・高等学校、教育機関、民官団体などで助言や講演を行う。さらに、県内市町村の教育委員会の委員会・審議会で専門的な立場から助言・指導を行い、教育文化行政に積極的に協力する。

2. 点検・評価

附属学校の研究授業には、授業や学外の委員会等と重複したため、今年度は参加できなかったが、教育支援講師・アドバイザーには登録し県内の小・中・高等学校、教育機関、民間団体などに対する助言や講演に備えた。また、鳴門市文化財審議会、美馬市郡里廃寺整備委員会などでは例年通り委員として出席し、専門的な立場から助言・指導を行い、教育文化行政に積極的に協力した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)